



月刊 千葉労働

革マル派による 組織破壊攻撃を弾劾する

危機にかられた 革マル派の攻撃

革マル派は、列車妨害事件に
関連して、機関紙「解放」一四
二二号(六月十日付)の記事で、
中野委員長と動労千葉に対する
断じて許すことのできない卑劣
な攻撃を開始した。

われわれは、この間、JRを
めぐって繰り返し起きている列
車妨害事件や、スキャンダラス
な脅迫、窃盗、盗聴、デマの流
布など、異様な事件の続発につ
いて、これらが全てJR総連の
組織的危機と連動し、しかもそ
の時々組織的危機の根拠・背
景に標的を定めて発生している
ことを見ると、どう考えても、
JR総連と関係したグループに
よって引き起こされているとし
か考えられない、と主張してき
た。これは、何も動労千葉だけ
が特別言っていることではない
JRのなかでは誰しもが思っ
ていることだ。

革マル派機関紙「解放」の記
事は、こうした事態に対する悲
鳴である。ただ、そこには反論
とか批判などは一行も書かれて
いない。あるのは、最初から最
後まで、中野委員長を名ざしに
した品性下劣な、脅迫まがいの
攻撃だけである。しかもその内
容たるや、「痴呆症状がますます
進行しているヤコブ病(「狂
牛病」)患者をすみやかに葬り
さつてやらなければならぬ」
などという、ファシスト的な心
情をあらわにした、聞くに耐え

ない悪罵だけなのだ。
われわれは、このような卑劣
な誹謗中傷、動労千葉に対する
新たな攻撃を断じて許さない。

怒りも新たに 想起しよう!

怒りも新たに想起しなければ
ならない。二〇万人もの首切り
なぜ強行できたのか。二百人も
の自殺者がどうして生みだされ
たのか。人間性すら引き裂くよ
うな差別が、どうして十年にも
及んで続いているのか。全て、
JR総連・革マルがその先兵と
なったからだ! われわれは、
この十年間、JR総連・革マル
と当局の異様な癒着体制と真正
面から闘いぬいてきた。この闘
いのなかにこそ、勝利の道すじ
があると確信したからだ。

行き着く所まで 行き着いた!

JR総連と革マル派は、この
間、「革マル隠し」すら一切か
なぐり捨て、危機感もあらわに
動労千葉や国労に対する攻撃を
エスカレートさせている。しか
し、そこから見えてくるのは、
JR総連・革マルの想像を超え
た危機に他ならない。「国労の
最後の解体」を基本方針として
掲げ、「国労が秘密献金」など
という自作自演のデマで攻撃を
しかけ、当局をけしかけて勝浦
運転区廃止攻撃を強行し、「列
車妨害の犯人は国労だ」と言い

なし、今度は、中野委員長に対
し、「すみやかに葬りさる」な
どと叫びだしたのだ。しかも、
列車妨害やダーティーな事件の
数々。いかに生き延びるためと
はいえ、あまりに異様な事態だ。
はつきり言って混乱・乱調の極
み! 行き着く所まで行き着いて
しまったということだ。これが、
奴隷となつて生る道を選んだ者
の浅はかな末路である。彼らは、
日に日に危機を深め、危機を深
めれば深めるほど、道理を失い、
凶暴化する以外残された道はな
い。

否応なく、 最大の焦点に!

九六―九七年、十年間の闘い
の決着に向けた国鉄闘争の正念
場において、「革マル問題」は、
否応なく最大の焦点となる。し
かもこれは、「JR体制」の最
大の暗黒部分であり、弱点だ。
だからこそわれわれは、組織を
あげてこれと闘う決意である。
国鉄闘争勝利の道すじはここに
ある。

革マル派による動労千葉に対
する新たな攻撃を許すな! JR
総連を解体しよう!

小関支区長の謝罪 を求めてピラまき

木更津支部 (五月一四日)

六月一四日夕刻、木更津支
部は、木更津駅頭で、小関支
区長による脱退工作弾劾のピ
ラ撒き活動にたちあがった。
「JR千葉支社は不当労働行
為をやめろ!」「小関支区長
は不当労働行為を謝罪せよ!
――ピラは、通勤や通学
帰りの市民に次々配られた。
支区長自身もちようどそこに
通りかかり、自らのピラが撒
かれているのを見て、あわて
て引き返す。

ピラ撒き終了後は、近くの
市民会館において、勤務以外
の全員が集まって、職場集會
が開催された。「こんなやり
方をやられて黙っているわけ
にはいかない!」「ほんとうに
くやしい思いだ!」「JR総連
・革マルと結託した卑劣な組
織破壊攻撃は絶対ゆるさない
」。いつでもストライキに決
起できる万全の組織体制が確
立された。